

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000488		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「夕焼け小焼け」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥409番地1		
自己評価作成日	平成25年8月15日	評価結果市町村受理日	平成25年10月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiyosyoCd=2171000488-008PrefCd=21&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年9月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな環境の中で、地域社会との交流を深めながら、その一員としての意識をもってもらい、日々の生活の中で生き甲斐をもって生活していただけるような心細やかな支援を目指している。
医療法人社団福寿会として、グループホームの他に、小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者生活介護、短期入所生活介護、居宅介護支援のサービスを行っており、それらの施設と連携をとりながら、利用者や家族の希望にそった、個々の利用者に適したより細やかな総合的なサービスの提供を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、複合施設の一角にあり、地域の高齢者を支える拠点として定着している。特に、医療・看護・介護と連携した支援は、最大のメリットであり、利用者・家族から安心と信頼を得ている。職員の育成にも熱心に取り組み、内外の研修や学習会で多くを学び、職員の意欲の向上と、職場環境の活性化につなげている。利用者には、自由で当たり前な行動を支え、思いを受け止め、笑顔を引き出しながら、その人らしい暮らしができるように実践をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で福祉・介護の重要な役割を果たし、地域社会に貢献するという意識を持ち、利用者のそれまでの人間関係や地域とのつながりを大切に、馴染みの環境で暮らしてもらえるように実践につなげている。	地域密着型の意義をふまえ、地域の一員として積極的に関わり、地域への貢献と、協力体制を築いている。利用者が、慣れ親しんだ地域の中で、笑顔で自分らしい暮らしができるように実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	苑周辺の散策などで地域の出会いを大切に、近隣の方から野菜や生花などいただくこともあり交流を深めている。園児の鼓笛隊や夏の白鳥踊りなどが恒例となっており、地域の人と一緒に利用者も楽しんでいる。	苑前の広場は、夏祭りの会場である。立地に恵まれ、住民が気楽に立ち寄り、野菜や花の差し入れは日常である。近隣とは、災害時に助け合う関係もでき、自由参加の勉強会へ招いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として、認知症に対する理解や啓発活動、家族支援などをテーマにした勉強会やイベント等の開催を計画したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、利用者家族や市職員、自治会長、民生委員などの意見を聞き、サービス向上に努めている。	会議は、法人合同で開催している。運営の現状と介護保険制度や災害協力体制等、多様な意見を交わしている。利用者サービスの課題も話し合い、改善につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、市の介護相談員が来苑し、利用者や職員のケアの相談等を受けている。また、日常的に市の高齢福祉課等に相談したりアドバイスをを受けたりして連携を深めている。	市が主催する研修会等に参加したり、ケアマネジャーの事例検討会に参加している。運営上の課題は、その都度相談し、助言を得ている。介護相談員の来苑は継続し、協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来る限り身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、今後も個人の人権が尊重されるようなケアを目指したい。	身体拘束をしないケアを実践している。必要な対象者はないが、安全上やむを得ない場合は、同意書を整えている。マニュアルも備え、常に学習をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法を理解をして、利用者には穏やかに生活していただくよう支援している。		

岐阜県 グループホームコスモス苑 夕焼け小焼け

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、具体的にそれを活用できるような支援は行っていないが、研修等に参加するなど、権利擁護に関する制度について学ぶ機会を作りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に、または契約締結時には、不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を得て契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見を自由に言えるように提言箱を設置している。また、家族会や面会時に意見を聞くよう努めている。利用者との日常の会話の中で一人ひとりの要望や意見を聞き、それをケア会議や責任者会議で取り上げている。	利用者は、日々の会話で、家族からは面会時や家族会で、意見・要望を聴いている。家族は、現状のサービスに肯定的であり、認知症介護の大変さを理解している。意見等は、責任者会議に図り対処している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケア会議や責任者会議等において、意見や提案を聞き、それを運営に反映させるよう話し合っている。	毎月の会議で、職員から意見を聴いている。勤務調整や職場環境の改善を話し合い、運営に反映している。職員会議の司会は、交代制にして向上心が育つように取り組んでいる。	職員の育成は、サービスの質を高める上で、不可欠あり、研修や実務体験を伴う学習の継続に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績を考慮し、各自が向上心をもって働けるよう配慮はしているが、さらなる処遇改善に努めたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は、その段階に応じ、計画に基づいて、定期的に研修を受けている。また、資格取得に対する経済的支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、岐阜県グループホーム協議会に加入しており、勉強会・研修への参加や相互訪問等の活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の段階で、本人や家族との話し合いを持ち、現在の状況やこれまでの生活歴等の情報をできる限り集め、サービス計画の基本を作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族ともできる限り面談し、話を聞く機会を設けて、不安を取り除き、安心して入所していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときは、まずどのようなサービスが適切なのか十分に話し合い、系列施設のサービス利用も含め、その状況に合った対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一方的に介護する人になるのではなく、利用者からみて信頼(安心)できる人となり、本人と一緒に仕事を行い共に生活している実感を持っていただくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が利用者と家族のような意識を持って接し、一緒に過ごしながらお互いに支え合う関係を築くことができるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症の人を社会的に孤立させないように、友人や親戚、家族の訪問、お墓参り等、これまでの人間関係が途切れないよう今後も継続的に支援していきたい。	友人や親戚の訪問があり、ゆっくり話し合いの場を提供している。また、再訪を促している。地域のサークル(まめな会)へ、毎月出かけ、馴染みの人と出会っている。地元の理美容院とも、馴染みの関係である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が助け合うような場面が日常的に見られ、むしろ私たち職員の方が学ぶべきことが多いと感じる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ地域住民として、街中であったときには、本人の健康状態、近況などを聞き、求められれば相談に応じることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に利用していた施設や在宅での暮らしぶりの情報をもとに、日々の生活のなかでの利用者の言動等を見ながら、一人ひとりの希望、意向を把握するよう努めている。	日々の言動から、思いや意向を把握している。家族からは、利用前の暮らしぶり(経歴)を確認している。ささやかな願いや最期には家へ帰りたいなど、様々であり、それぞれの思いに、寄り添うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等からの情報だけでなく、日々の会話のなかから利用者のこれまでの生活環境等を聞き出し、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常の生活の環境を毎日の職員のミーティング等で話し合い、細かに把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主任を中心に話し合い、家族や本人の意見も取り入れながら、より本人に適したケアができるよう、それぞれの意見やアイデアをケアプランに反映させている。	本人・家族の意向は、日頃より確認している。ケア会議で、職員からの意見やアイデアを反映させている。主任と担当者は、毎月モニタリングを行い、その人らしく暮らせるように、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や個別ケースに記録し、利用者の様子やちょっとした変化などを見逃さないよう、毎日のミーティングで情報を共有し、日々の実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームから自宅へ、さらに自宅からショートステイやデイサービスへと連携したケースもあり、状況に応じて臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、警察、消防、教育機関等と協力しながら支援してもらっている。また、ボランティアには頻繁に協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿うようにかかりつけ医と相談しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人・家族の同意を得て、法人の医院をかかりつけ医としている。医院は隣接し、何時でも往診ができる。職員の看護師と医院の看護師が連携し、毎日のインレット注射(インシュリン)にも対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や系列の医院の看護師が、本人や職員の相談にのりながら、適切な受診を受けられるよう、日常の健康管理等の支援をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリーなど、連携医療機関との情報交換等に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人又は家族の意向を聞き、早い段階から重度化や終末期に向けた方針を話し合い、当事業所で出来ることをしっかりと見極め、隣接している医院と協力し、できる限りの支援が行えるよう取り組みを始めている。	重度化・終末期の支援方針があり、契約時に説明している。本人・家族とは、段階的に話し合い、意向は繰り返し確認している。医療・看護と連携を密にし、支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が個人で心肺蘇生訓練やAEDの講習などに参加しているが、今後は全職員が講習を受けるよう指導する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署員立会いのもと避難訓練を実施しており、災害時の避難方法等を職員同士で確認している。また、地域の人にも災害時の協力をお願い、訓練にも参加してもらっている。	消防署員の立会い、地域住民が参加(前回の改善事項)する訓練を実施した。夜間想定避難誘導、消火、通報など、マニュアルを確認しながら行っている。あわせて、炊き出し(芋煮)も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの状態や性格等を把握し、どうすればその人の尊厳や誇り、プライバシーを損ねない思いやりのある対応ができるかを考えながら支援している。	利用者への基本姿勢を、事務所内に掲示している。一人ひとりの尊厳や誇りを損ねないように、思いやりのある言葉かけを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく本人が自己決定ができるように、希望や思いを把握し、一人ひとりの性格に合わせた対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り一人ひとりのペースを大切に、希望に沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容院等本人の希望の店があれば利用してもらおうよう支援し、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握して献立に活かせるよう努めている。野菜の皮むきや食事の準備、後片付けはできる限り一緒に行うようにしている。	個々の嗜好を把握し、献立に採り入れている。食材の下処理や片付けを手伝うなど、家事に参加している。職員は、検食者を除き、介助と雰囲気づくりを担い、食事中はテレビを消し、音楽が流れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表の記入をして、管理栄養士と連携をとりながら一人ひとりにあった食事量、水分をバランスよくとっていただくよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口の中の汚れが生じないよう、入れ歯の洗浄やうがい、歯磨きなどの口腔ケアを声かけや見守りながら、ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の表情や動作等から排泄の有無を察知し、さりげなく声かけをし、失敗が少なくなるよう支援している。排泄パターンは、記録等によって職員が把握し、できる限り自然排泄できるよう支援している。	排泄の自立度は高く、ほとんどは、声をかけ、失敗のないように対応している。現状では、紙パンツやおむつの使用が減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や栄養士と相談しながら、献立を工夫したり適度な運動を勧めるなど、一人ひとりに合わせた便秘対策を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応の入浴の予定はあるが、本人の希望により変更したり、時間をずらしたりして柔軟に対応できるよう努めている。夏場はシャワー浴など自由にできるよう利用者にすすめている。	入浴の時間や回数は、本人の希望に応じている。なかには、夕食後の習慣の人もある。夏場や汚れ具合により、シャワー浴で、清潔感を味わってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活・睡眠パターンを把握し、休息、睡眠、起床の支援を行っている。日中のメリハリある生活や適度な運動をしてもらうことによって夜間の安眠を確保するよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法、用量等の服薬の状況を一覧表にして、毎日確認しながら行っている。また、ケア会議等でも服薬の内容の確認や状況等も検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いや喜びのある生活が送れるように、その人の趣味や特技などを活かした活動ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は花畑、作物の植えてある苑庭や近くの神社等を散歩していただいている。また、祭りや花見等、季節に応じた外出支援を行っている。	ホーム周辺と、近くの神社が散歩コースである。広い庭で外気浴も楽しむことができる。さらに、喫茶・買い物、季節の花見を支援している。利用者の懐かしい思い出がよみがえるように、小旅行を計画している。	長良川鉄道を利用した、円空仏めぐりや滝めぐり、買い物等を予定している。新企画の実現に期待したい。

岐阜県 グループホームコスモス苑 夕焼け小焼け

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な方には、個人で管理してもらうよう、一人ひとりの希望や能力に合わせて支援するよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限り本人の希望通り、電話したり手紙を出したり出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑庭には花が咲き、玄関やフロアーにも花を飾り、季節感を味わっていただくよう工夫している。又居室の温度設定、においなどに気を配り、気持ちよく過ごしていただくよう支援している。	ユニット間に事務室があり、利用者の様子が見える構造である。広いベランダと、窓越しに実のなる樹が並んで見える。居間には、利用者手づくりの作品、習字の傑作、季節の花を飾っている。共用の間では、明るく適温で、気持ちよく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が隣に座れるよう席などに気を配り、思い思いに過ごしていただけるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品や装飾品を使ってもらえるよう、本人や家族と相談しながら支援している。	思い出深いものを部屋に飾っている。伴侶の遺影やペットの写真もあり、絨毯にコタツ、椅子などの家具類は、持込である。馴染みのものを、使いやすく配置し、居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂、廊下等全て手摺りが設置されている。居室やトイレが分かりやすいように表示するなど、混乱や失敗を防ぐよう工夫している		